

一般社団法人日本ビタミン学会平成 26 年度事業計画

1. 基本方針

当学会は、ビタミン学(ビタミン、その他のバイオフィクターに関する学問分野)の進歩、発展に貢献し、もって国民の健康増進に寄与することを目的とし、会誌の発行、年次大会、市民公開講座、表彰、研究助成などの事業を行っており、同目的を更に推進するため、平成 25 年 5 月 29 日一般社団法人の法人格を取得し、公益社団法人に向けて準備している。

今年度は、下記のとおり、公益法人に相応しい社会貢献に重点をおいた事業計画を策定するとともに、更なる、学会の活性化を図るため、新たな賞を設けるなどを計画している。

- (1) 学会の活性化、会員増につながる新たな賞の設置。
- (2) 会誌の充実、会誌掲載内容の見直し。
- (3) 地区活動の活性化、活動体制の強化。
- (4) 政府関係機関との連携。
- (5) 関係他学会との連携・強化。
- (6) 広報活動、ホームページの充実。

2. 事業計画概要

1) 会誌、学術刊行物の編集・発行

ビタミン学に関する最新の研究成果や最近の動向を逐次会誌“ビタミン”により発信することより、同関連分野(医学・薬学・理学・農学・工学・栄養学)の研究の活性化・進歩・発展に貢献し、もとより国民の健康増進に寄与している。特に、最近の社会の動向や社会のニーズに応じたトピックスを毎号複数掲載しており、また、必要に応じて編集委員会で、国民の関心事をとりあげたタイムリーな特集を随時企画・実行している。

会誌の編集、掲載論文の審査等は、編集委員会が厳正に行なっており、年 11 回発行(1 月～12 月を 1 巻)している。

論文種類は、次のとおりである。

総説、総合論文、原著、ノート、研究論文紹介、ミニレビュー、トピックス、ほかに、随想、コラム、企業のページの欄を設けている。

また、公益社団法人日本栄養・食糧学会と共同編集して JNSV(英文誌)を年 6 号発行している。

2) 年次大会、学術講演会

年次大会は、学会の目的を達成するため、理事会が大会委員長を選任し、大会委員長は、年次大会及び必要に応じて学術講演会、シンポジウム等を開催している。

開催地は、全国各地に及び、正会員、学生会員の研究成果の発表の場として、ビタミン学の研究の活性化、研究者の育成、地域連携を担っている。特に、学生の全国規模の発表機会として有効に活用され、優秀な研究者育成につながっている。

参加(聴講)は、会員に限らず一般の社会人・学生など不特定多数の者の参加が可能である。

◎ 平成 26 年度第 66 回大会

開催日：平成 26 年 6 月 13 日～14 日

会場：姫路商工会議所(姫路市)

大会委員長：渡邊 敏明理事(兵庫県立大学環境人間学部教授)

大会テーマ：ビタミン研究の新たな飛躍一次世代をつなぐ基礎、臨床、トランスレーショナルリサーチ

一般演題発表 106 演題(うち学生発表 39 演題)

【教育講演】「One carbon metabolism 関連栄養素と成人病胎児期発症起源説」
福岡 秀興（早稲田大学総合研究機構研究院 教授）

【文化講演】「黒田官兵衛の実像」

中元 孝迪（播磨学研究所所長 / 兵庫県立大学特任教授）

【シンポジウム 1】「ビタミン・バイオフィクタートランスポーター研究の最前線」

座長：竹谷 豊（徳島大学医学部病態栄養学）

安西尚彦（獨協医科大学医学部薬理学講座）

0) オーバービュー 竹谷 豊（徳島大学医学部）

1) 脂溶性ビタミンのトランスポーター

高田 龍平（東京大学医学部附属病院）

2) ビタミン C トランスポーター研究の現状と展望

石神 昭人（東京都健康長寿医療センター研究所老化制御研究チーム）

3) 亜鉛栄養と亜鉛トランスポーター

神戸 大朋（京都大学大学院生命科学研究科）

4) 機能性食品成分のトランスポーター

薩 秀夫（前橋工科大学工学部）

5) PG・有機アニオンのトランスポーター

安西 尚彦（獨協医科大学医学部）

【シンポジウム 2】「栄養と臨床におけるビタミンの遺伝子多型に基づいた
テーラーメイド摂取の有用性」

座長：瀧谷 公隆（大阪医科大学 小児科）

平岡 真実（淑徳大学看護栄養学部）

1) オーバービュー, 栄養素と遺伝子多型：テーラーメイド栄養学の実践

平岡 真実（淑徳大学看護栄養学部）

2) メチルテトラヒドロ葉酸還元酵素 (MTHFR) と神経管閉鎖障害：葉酸サプリメントは二分脊椎を防止する」

近藤 厚生（津島リハビリテーション病院）

3) 遺伝子多型に基づいた骨粗鬆症のテーラーメイド診療の可能性について

森 聖二郎（東京都健康長寿医療センター, 臨床研究推進センター）

4) 脂溶性ビタミンと遺伝子多型：代謝および臨床との関連

瀧谷 公隆（大阪医科大学小児科）

5) ビタミン D 欠乏症の発症に関する遺伝子多型

北中 幸子（東京大学大学院医学系研究科）

【学会賞受賞講演】

「ビタミンEの急性ストレス時における体内動態および組織の酸化ストレスと酸化障害に対する予防作用に関する研究」

太田好次（藤田保健衛生大学医学部 客員教授）

「ビタミンB₆ 酵素の構造, 機能, 進化に関する研究」

吉村 徹（名古屋大学大学院生命農学研究科 教授）

【奨励賞受賞講演】

「ビタミンEコハク酸の in vitro メカニズム解析から in vivo 癌治療システムへの展開」

濱 進（京都薬科大学薬品物理化学分野 講師）

3) 研究の奨励及び研究業績の表彰

(1) 学会賞

学会賞は、我が国におけるビタミン学の進歩発展に功績のあった研究に対し、毎年、学会賞、奨励賞を授与している。特に奨励賞は、将来さらに一層の進展が期待される研究を

奨励する目的で若手研究者に授与している。

表彰制度は、単に会員の研究奨励のみならず、ビタミン学全体の活性化・進歩・発展に貢献し、もとより国民の健康増進に寄与することとなる。

学会賞は、その推薦を広く公募し、厳正に選考している。学会賞の選考は、理事会の決議により学会賞選考委員会を設置し、被推薦者の研究分野の専門家を選考委員に選出している。受賞者には、賞状及び副賞を授与し、年次大会等において受賞講演を行い、同内容は、論文として会誌に掲載している。

*平成 26 年度学会賞受賞者

種別	受賞者・研究題目
学会賞	太田好次（藤田保健衛生大学医学部 客員教授） 「ビタミンEの急性ストレス時における体内動態および組織の酸化ストレスと酸化障害に対する予防作用に関する研究」
	吉村 徹（名古屋大学大学院生命農学研究科 教授） 「ビタミンB ₆ 酵素の構造，機能，進化に関する研究」
奨励賞	濱 進（京都薬科大学薬品物理化学分野 講師） 「ビタミンEコハク酸の in vitro メカニズム解析から in vivo 癌治療システムへの展開」

(2) 学生優秀発表賞

学生優秀発表賞は、年次大会において、学生会員の一般演題発表者の中で最も優秀な発表を行った者に対してを授与している。（代議員等の投票に基づき、業務担当理事会で若干名選出し、賞状と図書券贈呈している。）

(3) 優秀論文賞

会誌の充実及びビタミン学研究の進歩・発展のため、未発表の研究成果を原著論文として投稿することを奨励する目的で、今年度から新たに、「優秀論文賞」を新設した。

ビタミン誌に1年間（1号～12号）に掲載された原著論文のなかで特に優秀なものに対して、編集委員会の厳正な審査のうえ授与する

受賞者には、賞状と副賞を授与する。

(4) 企画・技術・活動賞

ビタミンとバイオフィクターの価値を科学的に裏付けて国民の健康と福祉に役立つような企画・技術・活動に特に貢献した者に対して授与する企画・技術・活動賞を新設した。

受賞者には、賞状と賞楯を授与する。

4) 市民公開講座及び地区活動の活性化

(1) 市民公開講座

広く国民にビタミンの知識を深め健康増進につなげるため、年1回市民公開講座を開催している。開催地は、できるだけ地域が偏らないように、全国各地を対象に毎年異なる地域と実行委員長を理事会で決定している。実行委員長は、開催地と国民の関心事を考慮して、テーマと講師を選考している。学生、一般市民、社会人などできるだけ幅広く容易に参加できるようなテーマと開催場所を設定し、参加費無料、事前登録なしで開催している。

◎平成 26 年度市民公開講座

実行委員長： 長岡伸一（愛媛大学理工学研究科教授）

テ ー マ： 「ビタミンやカロテノイドとアンチエイジングー健康で生き生きと暮らすー」

日 時： 平成 26 年 11 月 29 日(土)
場 所： 松山コミュニティセンター（予定）
講 演 等：
モデル実験：「体の錆びの原因をビタミンが取り除く様子を観察する」
大内綾（愛媛大学理学部博士研究員）（予定）
講 演：「加齢とともに増える病気とビタミン」
福澤健治（安田女子大学薬学部教授）
「ビタミンCで健康長寿、老化のスピードを遅らせる」
石神昭人（東京都健康長寿医療センター研究所研究副部長）
「野菜に含まれるビタミンやカロテノイドと健康」
相澤宏一（カゴメ株式会社研究開発本部自然健康研究部課長）

(2) 地区部会活動

地区部会活動を活性化するため、地区幹事を中心として研究会、シンポジウム等を随時開催し、研究の進歩・発展、研究者の育成を行なっている。開催にあたって、地区幹事からの申請を受け、一定の基準で開催経費を学会から補助している。

*地区部会活動（現時点での予定）

北海道・東北地区部会（市民公開セミナー2014：日本油化学会共催）

『健康増進 -ビタミン、機能性脂質との上手なつきあい方-食からの健康長寿を目指して』

実行委員長：増田園子（北海道医療大学 教授）

平成 26 年 10 月 25 日（土）13：00～17：00

会場：アスティ 45

参加者：約 100 名

① ビタミン E と健康の維持・増進（仮題）

宮澤陽夫（東北大院・農・教授）

② ビタミン K と健康の維持・増進（仮題）

駒井三千夫（東北大院・農・教授）

③ 機能性脂質の構造と機能（仮題）

板橋 豊（北大院・水産 教授）

5) 研究助成

ビタミン学研究の進歩・発展のため、国際学会等への参加を奨励し、参加費用の一部を補助している。特に若手研究者の育成に重点をおいて補助し、ビタミン学研究の活性化を図っている。

研究助成は、単に会員の研究奨励のみならず、ビタミン学全体の活性化・進歩・発展に貢献し、もとより国民の健康増進に寄与することとなる。

補助の内容は、国際交流委員会で策定し理事会で決定のうえ、公募している。

また、参加奨励する国際学会等の主催団体に対し経済的支援により助成している。

* ICC-04（2014. 8. 25～28 イタリア パルマ市 国際会議）

参加費補助について募集（平成 25 年 11 月募集開始）

1) 補助額：100,000 円（1 名につき）、補助人数：10 名

2) 補助対象・資格

a) 2014 年 3 月 31 日現在会員であること

b) 2014 年 3 月 31 日現在 40 歳以下であること

c) 演題発表を行うこと

d) 演題発表要旨、報告書（会議参加の体験・感想など）の提出

6) その他

(1) 栄養機能食品制度検討タスクフォース

内閣府規制改革会議の提案事項（閣議決定）のうち「栄養機能食品の対象拡大」について、学会として積極的に取り組むためタスクフォースを3月に立ち上げ検討を開始した。検討結果を学会として関係機関に提案していく。

(2) CRN-USA 出版物の翻訳版の発刊

CRN-USA から出版の「栄養サプリメントの有用性」及び「ビタミンの安全性」の翻訳版を栄養機能食品制度検討タスクフォースで編集のうえ、ビタミン学会監修として発刊する。

(3) ホームページによる広報活動

各種事業の案内・募集等ホームページを積極的に活用し、一般市民、会員に有用な情報を常に提供する。

3. 総会、理事会、委員会等開催予定

会議名	開催日	場所
総会	平成 26 年 6 月 13 日	姫路商工会議所
理事会	平成 26 年 6 月 12 日	姫路商工会議所
	平成 26 年 6 月 13 日	姫路商工会議所
	平成 26 年 11 月 日	
	平成 27 年 2 月 日	
幹事会	平成 26 年 6 月 12 日	姫路商工会議所
編集委員会	平成 26 年 4 月 3 日	日本イタリア会館
	平成 26 年 6 月 日	日本イタリア会館
	平成 26 年 8 月 日	日本イタリア会館
	平成 26 年 10 月 日	日本イタリア会館
	平成 26 年 12 月 日	日本イタリア会館
	平成 27 年 2 月 日	日本イタリア会館
トピックス等担当委員会	平成 26 年 6 月 14 日	姫路商工会議所
栄養機能食品制度検討タスクフォース	平成 26 年 6 月 13 日	姫路商工会議所
業務担当理事会	平成 26 年 4 月 30 日	日本イタリア会館
	平成 26 年 6 月 日	日本イタリア会館
	平成 26 年 10 月 日	日本イタリア会館
	平成 27 年 1 月 日	日本イタリア会館